

16期8号 医療安全ニュース

今回のテーマ:冬に増える「転倒・転落」に注意

なぜ冬は転倒転落が増えるのか

冬は次のような要因が重なり、転倒・転落リスクが高まります。

- ①発熱・脱水・活動低下による筋力低下・ふらつき
- ②厚着や履物の影響による動きにくさ
- ③夜間の冷えによるトイレ動作の増加・焦り
- ④寝具増加による足元の見えにくさ

「いつもできていた動作」が、冬には事故に繋がる可能性があります。



冬に多い転倒・転落の場面

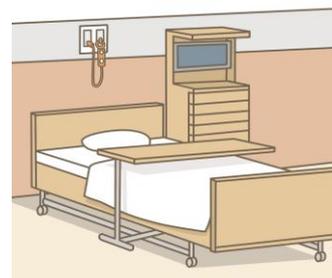
- ①ベッドからの立ち上がり時のふらつき
- ②夜間トイレ時の単独行動
- ③布団・毛布に足を取られてベッド周囲での転倒
- ④移動時のつまずき・バランスの崩れ

環境要因と体調変化が重なることが多いのが冬の特徴です。

転倒・転落を防ぐために

現場で見直したいこと

- ①立ち上がり・移動前のふらつき確認ができていないか
- ②夜間・早朝の動線・照明・障害物は安全か
- ③布団・衣類・物品で足元が見えにくくなっていないか
- ④「いつも大丈夫」と思い込みをしていないか
- ⑤体調変化を情報共有できているか



当院の状況

当院のインシデントを確認したところ、転倒・転落は特定の季節に偏らず、年間を通じて発生している状況でした。

そのため、本ニュースは季節要因だけでなく、日常的に起こりうるリスクとして転倒・転落対策を改対策を改めて共有する目的で掲載しています。

参考資料

- ・厚生労働省:高齢者の転倒予防に関する啓発資料・介護予防マニュアル
- ・日本医療機能評価機構:医療事故情報収集等事業 年報
- ・国立長寿医療研修センター:高齢者の身体機能低下と転倒リスクに関する解説資料 等

～お知らせ～

- ①16期医療安全業務改善書 中間評価をメール配信しています。
- ②2/2から医真会八尾総合病院におけるDNARに関する指針の運用を開始しています。
- ③2/2から転倒転落リスク評価を新しく「MorseFallScale (MFS)」に変更しています。

今月の一言

大丈夫? その一言で 事故防止

この川柳はAIによって作成されたものです

2026年2月17日 医療安全管理室